

取組事例の名称等
蒲郡あさひこ幼稚園



取組の内容

1 園内での保育

- ①日常保育
- ②「あさひこ農園」での野菜作り
- ③園のお祭り

2 自然教育

- ①園児が自然とふれあう機会として、3年間にわたり月1回ごとに近隣の里山で園外保育を実施。
- ②年中は「忍者修行」、年長は「季節の山の絵」を通して自然体験を実施。

3 関係者との連携・協働

- ①「お父さんウィーク」として、父親が自由に保育に参加できる日を設定。
- ②ブログ、SNS等で毎日発信。
- ③地域の方と園児が、昔の遊びを通して交流。

ねらい

“生きる力”を育てるために、自然体験等を活用した五感を使った保育を行う。

工夫

- ①子ども自ら何度も試し、確かめ、試行錯誤を繰り返しながら育っていけるような環境作りをし、自然豊かな園庭での遊び、廃材を使った製作活動等、創造力や自己課題を見つける力を育てる。教職員においては、情報共有タイムを毎日設け、園内外の研修にも積極的に参加。
- ②苗付けから、草取り、収穫まで子どもたちが行い食育につなげる。
- ③園で開催するお祭りでは、企画、準備、運営を年長児が主体的に実施できるよう支える。

♡ 見守り ♡ 本物体験 ♡ 成果実感

- ①同じ場所に何度も出かけることで、動植物に触れ、五感を通して豊かな季節感を育む。大人が遊びを用意しすぎないようにし、子どもの発想・発見を大切に活動を実施。
- ②「忍者修行」では、里山に住んでいる忍者からの手紙による「修行」という名のチャレンジングな遊びを通して、達成感を味わえるように工夫。年長は同じ場所で季節ごとに山の絵を描く。目で見たものだけでなく、音・匂い・空気等、五感を通して感じたものを絵に描いていくことによって表現力を養う。

♡ 本物体験 ♡ ゲーム化

- ①「お父さんウィーク」は、父親にも幼稚園での子どもの様子を知ってもらうために実施。幼稚園と家庭をつなぐとともに、地域で子育ての楽しさを共有。
- ②保育ドキュメンテーションにより、保護者に保育内容を共有。
- ③地域の高齢者が、子どもに昔の遊びを伝えることで、世代を超えて交流。

♡ 見守り ♡ 本物体験 ♡ 共感・納得

園児の状況

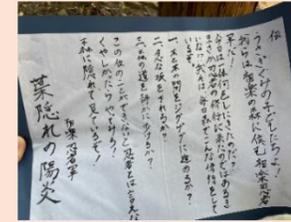
各家庭における園児の自然体験の状況は様々である。
満3歳児から入園可能である。

園児や関係者の反応

- ①自由に遊ぶのって楽しい！友だち、先生大好き！
- ②野菜が苦手な子も自ら育てた野菜は食べることができた。
- ③友だちと協力して一つのものを作り上げる経験から達成感を感じることができた。



- ①お山の中にはおもしろいものいっぱい！あれもこれもやってみたい、さわってみたい！



- ②同じ場所なのに、季節によって全然違う絵ができた！春はお花がいっぱい、秋は葉っぱが赤や黄色になってる！



- ①家庭と園での様子が違うことに驚き。家ではお片付けしないのに園ではしっかりしている。社会性が育っていることを実感。



- ②園での様子がよく分かる。
- ③子どもたちとふれあうことで元気をもらえました！



成果指標

五感を使った保育ができたか。

学習の効果&主に育まれる力

お祭りの準備として、看板やメニュー表を作成するため、文字を書こうとしたり、お客さんの人数に合わせて商品の数を計算したりと、遊びの中で必要に駆られ、自ら方法を考えたり、友だちと協力しながら文字や数字に興味を持ち、使うことができた。



同じ場所に何度も出かけることで、五感を使って季節の変化を感じとることができた。さらに、年長になると、感じたことを絵として表現することができた。



幼稚園での様子を「お父さんウィーク」「保育ドキュメンテーション」等で積極的に共有することで、保護者や地域の方と良好な関係を築くことができた。



■蒲郡あさひこ幼稚園

- ・自然体験を大切にした保育を実施している。
- ・園庭には「砂場」「動物舎」「かまど」、園庭の奥には斜面を利用した「あさひこランド」という、芝滑り、虫捕り等ができるエリアがあり、季節の虫や草花が遊び心を誘う。
- ・他にも「あさひこガーデン」というエリアには、トキワヤマボウシ等食べられる実のなる木が植えてあり、子どもたちにとって「癒しの森」となっている。さらに食育の一環として園児が季節の野菜を育てている「あさひこ農園」がある。育てた野菜はそのまま食べたり、干し野菜にしておやつで食べたりしている。
- ・また、「火」を使う体験を大切にしており、収穫した野菜を蒸籠で蒸すために、かまどで薪をくべ、火の便利さ・危険さ等を体験から学べるような環境を用意している。



かまど



あさひこガーデン



園庭での遊び



五感を使った自然体験

園児の変容

【先生のコメント】

- ・年中の「忍者修行」では、長所を互いに伸ばすような工夫として、それぞれの子の修行の成果をクラス全体で共有することで、一人一人の良いところを認め合えるようになった。全体場で発言をするように抵抗感があった子も、自分の意見を言えるようになり自信がついた。また視野が広がり、友だちの意見に耳を傾けようとする姿も見られるようになってきた。

【保護者のコメント】

- ・保育者が子どもに対して、自己肯定感を持てるような声かけをしてくれたり、全面的に受容してくれることで、子ども自身にも優しさや思いやりの心が育っている。
- ・虫が苦手で見るとも嫌と言っていた我が子が、園生活の中で虫への抵抗感が薄れ、「虫見つけたよ」と報告してくれるようになり、人と生き物とのつながりを感じるようになってきた。
- ・「お父さんウィーク」で経験した園での遊びを「家でもやってみよう」ということになり、我が子との関わりがさらに増えた。
- ・年中、年長と園で過ごすことによって、言葉での表現に広がりができ、自己主張ができるようになった。

成果と課題

【成果】

- ・五感を使った自然体験を通して、とことんのめりこんで遊ぶことにより、工夫する力、創造力、自己課題を見つける力が育った。
- ・子どもの主体性を重視した保育が、小学校入学後、指示待ちではなく状況に応じて自分で判断して行動する児童の姿勢の形成につなげることができた。
- ・人や自然と関わりながら過ごしていくことにより、「ぼく、わたしって素敵」という自己肯定感のベースを作ることができた。

【課題等】

- ・本園での取組をさらに幅広く伝え、地域全体で温かい子育てをしていけるようにする。また、小学校教諭と交流をし、スムーズに就学できるよう、子どもの育ちを共有する。
- ・継続して注意していく点として、自然体験を行う上での安全管理が大切なので、環境の確認や、園外保育の下見等をこまめに行い、危険がないように気をつけていく。